神金公民館だより

第１５５号
２０２３年
２月１日

お出かけは マスク戸締り　火の用心

2022年度全国統一防火標語

１月８日，消防団の出初め式が行われ，各分団がそれぞれの地域を回り放水訓練を行いました。

消防団員が減少する中でも各分団員の方々には，地域の防災活動に懸命に取り組んでいただき感謝しています。

どんど焼き

１月１４日，どんど焼きが各地区の道祖神場などで行われました。

今年は，いつになくあたたかなどんど焼きとなり，地区の方々が集まり，団子を焼きながら無病息災を願っていました。

後世に残し伝えたい

神金の歴史と伝統

神金の歴史

地元の歴史研究家でもある故飯島卓郎氏が，神金小学校PTA会報「ふもと」に執筆し寄稿した「神金の歴史」をシリーズで紹介します。

今月は，紙面の都合上「山　四」の前半部分のみの掲載となりました。後半部分は次月号に掲載します。

山　　四

藤村県令の甘い言葉にだまされて、自分たちの山が取り上げられたと悟った住民は依然として、盗伐、放火、その他あらゆる手段によって抵抗し、怒りの憂さ晴らしを繰り返した。牧丘町徳和部落の例であるが、地内の県有地に樹齢百数十年を経た樅、栂の大樹林を塩山林務事務所が競争入札を行ったところ、木材業者が競って入札した結果、破格の高値にて落札したが、その業者が伐採したところ材木の芯部に傷が多くて大損をしたという話があるが、これは自分たちの山に苗木を植え、幾年も汗を流して下刈りをして暫く大きくなった木を、山ごと取り上げられたと言うことは如何に悔しいことか想像するに難くない。悔しいままに部落の人達は総動員にて山に登り、鉈、よき等を使い取り上げられた木に恨みを込めて切りつけ傷をつけて損害を与えた跡がある。この話は最近塩山林務事務所の某職員から聞いた話である。

明治初年頃は文字通りの封建的社会で、一部の有力者の考えで総てが左右されたようである。藤村県令はその有力者を手なづけて騙したようである。大藤村の場合は高芝の奥に数十町の莫大の部分林を設定した。神金村の場合は旧二区と三区に広大な区有林があるが二区と三区に神金村を代表する有力者がいたものと思う。これらのボスは神金村全体のことを考えず自分の地区のことのみに専念したらしい。そのためボスのいなかった部落には何の権益も残されていない。仄聞するに旧二区の区民は有力者のお陰であると感激して区有林の一部を二名の有力者に贈って感謝の意を表したそうである。その内一名の有力者は他に転売したが、他の有力者の山は、今もその子孫が経営しているそうである。これはその例の一つであるが、区有林を貰って嬉しがって何万町歩の大きな山を取り上げられた一般住民は無知無能ではあったが、自分達の山がお上に騙されて取り上げられたという観念は、心の底から離れなかった。

＊後半は次月号に掲載します